

## 糖尿病内分泌内科シニアレジデントプログラム

### 【認定医・専門医コース】

#### 1. 診療科の特色とスタッフ紹介

##### <糖尿病内分泌内科の特色>

当科は、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設であり、日本糖尿病学会指導医、日本内分泌学会指導医のもと、糖尿病、脂質異常症、高血圧症、肥満症、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病や内分泌代謝疾患の臨床を幅広く研修できます。将来、日本糖尿病学会、日本内分泌学会の専門医を目指す方や、内科を専攻し、生活習慣病や内分泌疾患の臨床研修を希望する方、また、将来の開業を見据え、患者数の多い生活習慣病の外来診療を身につけたい方の応募を待っています。

##### <糖尿病内分泌内科のスタッフ>

部長 土居健太郎

##### 【専門分野】

生活習慣病、内分泌疾患、動脈硬化症

##### 【専門医認定・資格等】

日本内科学会認定医/総合内科専門医/指導医/近畿支部評議員

日本糖尿病学会専門医/研修指導医

日本内分泌学会専門医/指導医

日本高血圧学会指導医

日本内分泌学会代議員

日本心血管内分泌代謝学会評議員

日本病態栄養学会評議員

TNT コース修了

臨床研修指導医

京都大学医学部臨床准教授

医長 重本道香

##### 【専門分野】

生活習慣病、内分泌疾患、肥満症

##### 【専門医認定・資格等】

日本内科学会認定医/指導医

日本糖尿病学会専門医/研修指導医

日本内分泌学会専門医/指導医

日本糖尿病協会療養指導医

日本医師会認定産業医

臨床研修指導医

医員 早川尚雅

【専門分野】

糖尿病、内分泌疾患

【専門医認定・資格等】

日本内科学会認定医

日本糖尿病学会専門医

<平成22年度 診療実績>

年間外来患者数 21,702人

年間入院患者数 79人

平均在院日数 13.2日

2. 研修期間

ストレート、ローテート+ストレートいずれも可能。

ストレートの場合は、3年間固定で日本内科学会認定医を取得し、日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会の専門医資格の取得を目指す。ローテート+ストレートの場合は、ローテート初期1年間は、希望の科をローテートし、その後2年間で当科で研修する。2年次は、主に病棟を担当し、3年次は、外来も担当する。

3. 目標

<一般目標 GIO>

一般内科医としての素養を身につけ、全人的な医療が実践できるようになるとともに、糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満症、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病や甲状腺疾患などの内分泌疾患について、専門的知識・技能をもって、適切に診断し管理できる能力を習得する。

<個別目標 SBO>

- 1) 糖尿病患者に対し、食事療法、運動療法を的確に指導できる。
- 2) 経口血糖降下剤やインスリンなどを用いた薬物療法が適切に行える。
- 3) 糖尿病の合併症を評価し、予防と治療を計画できる。
- 4) 内分泌疾患に関し、内分泌学的負荷検査を計画し施行できる。
- 5) 糖尿病性昏睡、低血糖発作、甲状腺クリーゼ、粘液水腫、下垂体卒中、副腎不全、電解質異常などの緊急を要する内分泌代謝疾患に対処できる。
- 6) 糖尿病療養指導士である薬剤師、管理栄養士、看護師、健康運動指導士などのコメディカルと協力できる。
- 7) 患者の心理に配慮して、糖尿病患者教育が行える。
- 8) 肥満症、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症、メタボリックシンドローム等の生活習慣病の外来診療が適切に行える。
- 9) 甲状腺疾患の診断と薬物治療が行える。
- 10) 甲状腺疾患の手術やアイソトープ療法の適応が判断できる。
- 11) 手術療法が第一選択である内分泌疾患に対し、術前・術後、外科医と協力できる。
- 12) 後期研修終了時までには、日本内科学会認定医の資格を獲得する。

#### 4. 方略 LS

##### LS1 患者診療 (OJT) :

病棟においては、入院患者を担当医として治療にあたり、外来は、能力に応じて、週1日ないし2日診察に携わる。また、能力に応じて、病棟で他科からのコンサルテーションも担当する。

##### LS2 カンファレンス・勉強会 :

週1回の回診、カンファレンスに参加する。

週2回の糖尿病教室の一部を担当する。

月1回：コメディカルを含めたカンファレンスに参加する。

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟 運動療法	病棟 運動療法	休	外来	病棟 運動療法	外来
午後	病棟	回診 カンファレンス	休	病棟	糖尿病教室 カンファレンス	病棟 院内対診

##### LS3 学術活動 :

日本内科学会や日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本心血管内分泌代謝学会などに参加し、最新の知見も習得する。能力に応じて、日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、米国糖尿病学会などで学会発表を経験するとともに、成果を論文として発表する。ストレート3年研修の場合、2年次以降、年に2回学会、研究会で発表すること目標とする。また、3年終了までに、論文投稿を経験する。

#### 5. 評価

指導医より担当した患者ごとに形成的評価を受けるとともに、優秀な者は、研修終了後、当科医員（スタッフ）への採用を推薦する。

#### 6. その他

##### \* 関連学会

日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本心血管内分泌代謝学会、日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、米国糖尿病学会

##### \* 専門医取得の条件など

日本内科学会認定医：申請時に臨床研修2年＋当院内科研修1年以上であること。

日本内科学会専門医：申請時に認定医取得後、内科研修3年以上であること。

日本糖尿病学会専門医：申請時に認定内科医研修課程修了後、認定教育施設で3年以上、糖尿病臨床研修を行い、かつ日本糖尿病学会に連続して3年以上会員であること。

日本内分泌学会専門医：申請時に日本内科学会認定医を取得しており、かつ日本内分泌学会に継続して4年以上会員であること。

##### \* 将来の進路

後期研修終了後当科医員（スタッフ）として起用、京都大学大学院医学研究科臨床病態医科学・内分泌代謝科への入局、大学院進学など

## 【短期研修コース】

1. 診療科の特色とスタッフ紹介  
(認定医・専門医コースを参照のこと)

2. 研修期間  
2～4ヶ月

3. 目標

### <一般目標 GIO>

内科認定医や他の診療科での専門医・認定医を目指す医師に対し、認定資格の要件を満たしたり、将来、必ずや頻繁に遭遇するであろう糖尿病やその他の内分泌代謝疾患の基本的診療能力を身につけ、同時に、時期を逸せず適切に専門医にコンサルトできる能力を習得する。

### <個別目標 SBO>

- 1) 糖尿病患者に対し、食事療法、運動療法を的確に指導できる。
- 2) 経口血糖降下剤やインスリンなどを用いた薬物療法を理解する。
- 3) 糖尿病の合併症を評価できる。
- 4) 糖尿病療養指導士である管理栄養士、看護師、薬剤師、健康運動指導士などのコメディカルと協力できる。

4. 方略 LS

LS1 患者診療：OJT

病棟においては、入院患者を担当医として治療にあたる。

LS2 カンファレンス・勉強会：

週1回の回診、カンファレンスに参加する。

週2回の糖尿病教室の一部を担当する。

月1回：コメディカルを含めたカンファレンスに参加する。

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟 運動療法	病棟 運動療法	休	病棟	病棟 運動療法	病棟
午後	病棟	回診 カンファレンス	休	病棟	糖尿病教室 カンファレンス	病棟

5. 評価

指導医より担当した患者ごとに形成的評価を受ける。